

# 第3回石狩市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する 関係機関等協議会会議議事録

日 時：令和7年3月6日（木）  
18時00分～19時20分  
場 所：石狩市役所本庁舎4階  
401・402会議室

出席委員 小森 享 委員（会長）（石狩市立樽川中学校校長）  
中西 章司 委員（副会長）（石狩市教育委員会学校教育部長）  
西野 典男 委員（公益財団法人石狩市体育協会専務理事）  
中川 文人 委員（石狩市スポーツ推進委員協議会会長）  
向田 久美 委員（アクトスポーツプロジェクト代表理事）  
西田 正人 委員（石狩軟式野球連盟副会長）  
小原 江里 委員（石狩市PTA連合会副会長）  
斉藤 晶 委員（石狩市教育委員会社会教育部社会教育課課長）  
矢野 淳司 委員（石狩市健康推進部スポーツ健康課課長）  
松田 直貴 委員（石狩市民吹奏楽団団長）  
清水 雅季 氏（特定非営利活動法人石狩市文化協会副会長※）

※池田幸夫委員に係るオブザーバー出席

欠席委員 小林 道晃 委員（石狩剣道連盟理事長）

事務局 石狩市教育委員会  
教育長 佐々木 隆哉  
学校教育課長 森本 栄樹  
学校教育課学校教育担当主査 瀧坪 将

傍 聴 なし

## 議事内容

### 1. 開会

事務局\_森本） 定刻となりましたので、石狩市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する関係機関等協議会を始めさせていただきます。私、教育委員会学校教育課長の森本です。どうぞよろしくお願いたします。本来であれば、もう少し早い時期に開催を考えてございましたが、開催時期が遅くなったこととお詫び申し上げます。本日

の出欠でございますけれども、石狩剣道連盟の小林様が欠席する旨の連絡をいただいております。また、石狩市文化協会池田様におかれましては本日、代理ということで清水様の出席をいただいておりますのでご報告いたします。一言ございましたらお願いいたします。

清水氏) 本日池田の代理でまいりました清水でございます。実は4月に池田の後任で文化協会に務めさせていただくこととなります。もしかすると、この会が継続するとしたら、私が正式に委員になるものかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局\_森本課長) それでは、この後の進行につきまして、小森会長にお願いすることといたします。小森会長、どうぞよろしく願いいたします。

小森会長) 改めまして皆さまこんばんは。普段から健全育成に対する活動ありがとうございます。市内中学校が参加する合唱コンクールも無事行えました。また、本校は太鼓部や吹奏楽部、あちらこちらに出演させていただいて地域から本当に助けられています。簡単に中学校の今の状況を申し上げますと、昨日、公立高校の入試と面接が終わりました。三年前から誰でも推薦ができる自己推薦制度が始まって、今年で三年目になります。入試日以前に合格が決まる生徒がかなり多くいるので、昔なら昨日の本番公立受験日に大勢の生徒が受験に備えていました。行き先も多岐に渡り、私立学校も相当数ありますし、昔と違って色々な学校に進学する選択肢があります。そして、来週13日が中学校の卒業式ということになり、そのあと小学校の卒業式が控えております。このスケジュールは昔とさほど変わっておりませんが、3年生は最後の思い出作りとして中学校生活を楽しんでおります。先ほど森本様からお話がありましたが、昨年8月6日以降時間が空いております。その間に団体アンケートを実施いただいたりしておりますので、そういった話もあると思います。どうぞよろしく願いいたします。それでは、会議次第に従って進めてまいります。これまで2回の協議会を開催し、時間も経過していることから、過去の協議を振り返るということで、本日の協議を進めてまいりたいと考えます。事務局より、次第「2 協議」「① これまでの協議会の振り返り」について、説明をお願いいたします。

## 2. ①これまでの協議会の振り返り（第1回・第2回）

事務局\_瀧坪) 教育委員会学校教育課の瀧坪と申します。本日はどうぞよろしく願いいたします。説明に入らせていただく前に、皆さまのお手元の資料の確認をさせていただきます。

前回会議から少し間が空いてしまいましたので、本協議会におけるこれまでの議論経過を振り返らせていただきます。

本日の議事内容を目次で示した資料の1枚目をご覧ください。第1回協議会においては、①に示すとおり、本協議会において議論いただく上で大前提となる『部活動改革

の意義』について、“子どもたちが、スポーツや文化芸術を楽しむことができる環境の確保”であることを共有させていただきました。

次に、部活動改革を推進する上で、②のとおり、行政を含めたステークホルダーの役割の一例をお示しました。

続いて、③のとおり、委員の皆さまそれぞれのお立場から、各競技が現状抱える課題点を忌憚なくご発言いただいたところでもあります。

そして最後に、部活動改革が行われた場合、様々な課題やリスクが想定されるため、行政支援の方法や規模、事故発生時の対応等への検討が必要と議論いただいたところでもあります。

第1回協議会の結びとしては、現在の部活動の主役である児童生徒や保護者、教員へのアンケートを実施し、“石狩市版部活動改革”の方向性を明確にすることが決定されました。

続いて2ページ目をご覧ください。第2回協議会においては、当該アンケートの結果をご報告させていただきました。回答内容の概要については、資料2ページに記載のとおりであり、一部を読み上げますと、現在、学校外でスポーツ活動・文化活動を行っている児童は7割に上り、月1～2万円の月謝負担があるようです。また、部活動改革により地域クラブが創設された場合、月3～5千円程度の月謝負担であれば、参加を希望する子どもが多数でした。一方、教職員からは、6割の先生が未経験の競技の部活動顧問を担っているとのことであり、部活動改革を歓迎する声が多数聞かれたところでもあります。

アンケートの総括としては、『地域クラブ活動への移行には肯定的な意見が多く、現在行っている活動の継続を希望する傾向にありました。学校現場からも教職員の負担を軽減する部活動改革を歓迎しているようです。

資料3ページをご覧ください。これらのアンケート結果を踏まえて、他市の事例を紹介する形で本市における部活動改革の検討の方向性について『合同部活動』と『拠点校方式』を例示としてご説明いたしました。『合同部活動』は、通学すべき学校に部活動が開設されていることが前提であり、顧問も配置されておりますが、活動人数が少ない等の事情から、他校と共に活動するような形態です。一方、『拠点校方式』は、通学すべき学校に部活動が開設されていない場合において、近隣の学校の部活動に所属し、放課後は他校に赴いて活動を行うものです。これらはいずれも、活動場所までの移動方法などの面で課題があるものと考えられます。また、教職員の働き方改革を推進する上では、部活動顧問としての業務を教職員から剥がす、たとえば「外部人材の積極的登用」や「地域クラブ活動への移行」が検討されます。

この点、地域クラブ活動への移行を見据えた場合には、現在活動されている民間団体の実情を把握する必要性が議論されたところでもあります。

そこで、今後受け皿となり得るクラブチーム等の団体にアンケートを実施し、本市においてどのような部活動改革が馴染むのか方向性を具体的にお示しすることが決定され、本日の第3回協議会に至っております。

小森会長) ただいま、事務局より、これまでの振り返りについて、説明がありました。

確認事項がありましたら、ご発言をお願いいたします。

西野委員) おそらく1回目の協議会だったと思いますが、スケジュール案が出されており、その中に地区別保護者説明会という文言があったと記憶しております。その実施に際し保護者からの意見などあったら教えていただきたいと思います。

事務局\_森本課長) 私からお答えいたします。ただいま西野委員がおっしゃったとおり、1回目の時は、2年間かけて、今年度末である程度私たちの計画を作って保護者に説明したいと意向を持っておりましたが、国の動向や管内市の動向も注視しておりました。道教委主催の会議を聞いておりますと、石狩管内の動きがあまり進んでいないのが現状であり、先生方は石狩管内で異動するものですから、ある程度管内で足並みを揃えて検討していかなければならないということがあります。当初、私たちがご提示した案と比較すると、思ったとおりに進んでいないというのが現状であり、本来は計画を策定した上でそれを提示して地域移行を進めていくという予定でしたが、現状は計画も未策定であり、スケジュール感としては遅れているということで、保護者説明会も実施していない状況になっております。こういった事情についてご理解いただきたく存じます。

西野委員) 今後、保護者の意見等を聞く予定はありますか。

事務局\_森本課長) 状況に応じて聞く必要があれば検討してまいりたいと思います。

小森会長) 石狩市だけが遅れているというわけではなく、国や道の動きもなかなか進んでいないといった状況についても後でお話があるかと思えます。他にありませんでしょうか。いったんよろしいですか。次に、「② 団体（受け皿）のアンケート結果」であります。第2回では、市の方向性を決めていくには、受け皿となる団体の意向を確認する必要があるとし、アンケートを実施することとしておりました。その結果も含めて事務局より説明をお願いします。

事務局\_瀧坪) 資料4ページ目をご覧ください。先日行った団体アンケートの概要をお示しします。アンケートの実施に際しては、石狩市スポーツ協会様や石狩市文化協会様にご協力をいただき、その傘下にある活動団体に周知したほか、総合型地域スポーツクラブ“アクトスポーツプロジェクト”様にもご案内差し上げ、また、HPからも回答できるように広く周知し、本年1月22日から2月14日までを期間と定め実施したところです。

続いてアンケートの結果をご報告差し上げます。資料5ページ以降に記載がございますが、まず、回答総数は8件でした。

問1につきまして、「部活動の地域移行」の認知度は100%でした。

続いて資料6ページ、問2ですが、「部活動の地域移行」に見出される意義についてはご覧のとおり分布となっており、現在の活動の活性化に期待する声が多く見られる一方で、意義を見出せないといったご意見も2件ございました。

資料7ページをご覧ください。問3「地域クラブ活動」の実施主体となることについては、条件付きを含めた肯定的な意見としては4件であり、半数を占めました。しかし、実施は困難との回答も3件となっております。

資料8ページ、地域クラブの実施主体となることについて『条件によって検討可能』

と回答した1団体を対象とした問いでは、想定されておりましたとおり、財源や活動場所の条件が整うことが必要との回答でした。

続いて資料9ページをご覧ください。条件にかかわらず「地域クラブ活動」の実施主体となることは困難と回答した3団体にその理由をお尋ねしたところ、『部活動の地域移行の趣旨に賛同できない』が2件あったほか、資料右下に“その他”の回答としてお示しします。『専門的な指導は難しい』や『受け皿としてまだ十分に育成されていない』、『現行制度の拡充等、学校教育における改革が必要』との意見がございました。

続きまして資料10ページをお開きください。この表は、現時点で受入れ検討が可能な「競技・種目」「活動日」「指導者人数」「活動場所」を具体的にお聞きした結果です。現在、本市の部活動にはない競技・種目が“「男子バレーボール」「合唱・アカペラ」「硬式テニス」”であり、それ以外は、現在市内のいずれかの学校で部活動が開設されている競技・種目でした。会場の確保が難しいといった状況が一部にあるようですが、これらの競技・種目については、地域クラブへの移行を前向きに検討する余地があるものと考えております。

最後に資料11ページには、「部活動の地域移行」に関する自由意見を載せております。資料12ページをご覧ください。アンケートの結果を総括しております。部活動の地域移行の受け皿となることについて、半数が肯定的な意見ということがわかりました。しかし、財源・活動場所のほか、移動手段の確保が課題となります。なお、移動手段の観点からは、指導者が学校に赴く上での移動手段とともに、生徒が活動場所に通うための移動手段の両面からの検討が必要と考えられます。

また、先ほどもご説明いたしましたとおり、全体の回答数は少ないながらも、4割の意見が「部活動の地域移行」に否定的であるということも明らかとなりました。その理由として触れられていた“学校教育制度の改革が必要”との意見について、私から捕捉させていただきます。このご意見は、具体的には、②にお示しするとおり、『現在の部活動指導員の積極的展開や外部指導者の業務内容の拡充を含めた学校教育制度の改革が必要』とのご意見でした。図でお示しするとおり、部活動指導員は、市の会計年度任用職員として任用しており、その業務内容は、顧問である教職員と同様に大会の引率や保護者対応など、多岐に渡ります。怪我をした場合等は公務災害の対象として補償されることとなります。一方、部活動外部指導者は、有償ボランティアとしてご協力をいただいているものであり、その業務内容はあくまでも技術的な指導のみと限定的であります。指導者の怪我等に際しては、ボランティアの皆さまが一般的に加入されているスポーツ安全保険により補償がされます。アンケート回答者の意図としては、たとえば部活動顧問業務が可能な部活動指導員を増員したり、有償ボランティアである部活動外部指導者の業務内容を拡充したりすることにより、現行制度の中で子どもたちがスポーツ活動・文化芸術活動を継続する方法を提案されているものと考えられます。アンケートの結果についての説明は以上でございます。

小森会長) ただいま事務局から説明がありました。11ページまでがアンケート結果、12ページが総括ということでした。石狩市の素晴らしいところは、部活動指導員が現

状5名いて、来年度1名増える可能性があるということです。もちろんそれだけでは足りませんが、そういった制度を整えていただいているところがあります。ご確認やご質問等あればお願いします。

～なし～

よろしいですか。後で戻ってもよろしいので先に進みます。「③ 国の最新動向について」、事務局より説明をお願いします。

事務局\_森本課長) それでは、私の方から、説明させていただきます。

資料13頁をご覧ください。地域移行については、休日の部活動から地域にお願いするようにと段階的に進めるものと示しておりまして、国は令和5年度から7年度までを改革推進期間と定め、推進する考えでした。現在、国においては、令和8年度以降の部活動改革に関し、基本的な考え方を議論しており、昨年12月2日に、その中間報告が取りまとめられております。それが13ページにまとめており、中間とりまとめの資料が2枚留めのカラーの資料になります。取りまとめの中では、「地域移行」という名称を「地域展開」に変更することとされ、これは学校内で運営されてきた活動を広く地域に開き、地域全体で支えていくことを強く表現する意図から名称を変更することが示されております。令和8年度から令和13年度まで6年間で前期後期に分け、前期の期間中に休日の部活動の地域展開をある程度定着させながら、平日の部活動についてもこの6年間で改革を進めていきたいということが中間とりまとめのなかで示されております。スタートが令和8年度になりますので、今年の春くらいにはとりまとめを踏まえて基本的な考え方が明かされると聞いております。やはり全国的にまだまだ進められていない実態がありまして、国の方では更に6年間かけて取組みを進めていこうと示されているものであります。説明は以上です。

小森会長) ただいま、事務局から「国の最新動向について」説明がありました。令和7年度までに終わらせるような前提のスタートだったと思いますが、国としてもスケジュールが遅れている状況にあるので、石狩市だけ先に進めるわけにもいかないという説明が先ほどもあったかと思えます。来年度までは改革推進期間と名前も変わって、地域展開という名前にも変わっているとのことでした。難しいところですが、何か確認や質問があればどうぞお願いします。

向田委員) 大人都合というか、強制的な部分では、確かに時間をかけてじっくり良いものを作りたいということで期間が延びている状況だと思いますが、肝心の子どもたちからすれば、中学校生活は三年間しかないわけであり、渦中の子どもたちが実際どうなのかなというところだと思います。仕方がない部分もあるかもしれないですが、地域のスポーツに関与している皆さんは、やっぱり子どもが犠牲者にならないような形で早急に楽しい中学校生活を送ることができるように体制を整えてあげたいというのが私の気持ちなので、大人のタイムスケジュールにかかわらず、石狩市としては、スピード感を持って子どもたちのために何ができるかということを考えていただければと個人的には思っています。

小森会長) ありがとうございます。

事務局\_森本課長) 今の向田委員のご意見について、私たちも部活動の特に団体競技

の人数も減ってきている現状もあって、スポーツや文化活動を行う環境というのを整えていきたいと思っておりますが、なにぶん、石狩市だけが飛び抜けてとなると、なかなか難しいところもあるものと思っておりますので、色々と情報収集しながら早急に進めてまいりたいと思っております。何卒ご理解いただきたいと思っております。

清水氏) 質問です。資料12ページにある部活動指導員と部活動外部指導者の仕組みが理解できていないので、教えていただきたいと思っております。この2つはいつ頃から始まった制度なのか、また、部活動指導員についてはどのような経歴の方が担われているのか教えていただきたく存じます。

事務局\_森本課長) 部活動外部指導者はあくまでもボランティアです。技術指導するというので、責任の度合いがそれほど大きくないと捉えてもらえれば結構かと存じます。部活動指導員は、年度がはっきりしなくて申し訳ありませんが、国としては平成29年度くらいから制度化されたものと記憶しております。それまで部活動の顧問は教職員しか担えなかったところ、顧問として指導ができるという国の仕組みができ、石狩市としてはこの制度の活用に向けて検討しておりました。2年前の令和5年度から部活動指導員は3名をスポーツ系の競技で活用しており、バスケットボールが2名、ソフトテニスに1名の方をそれぞれお願いしました。実際どのような方が担われているかというご質問ですが、もう仕事をリタイアされた方で、その競技に携わっていた方にお声掛けしております。北海道のサポーターバンクという制度があり、そこに登録されている方から選んでおります。ほかには、今まで無償でお手伝いしていただいていた方にお声掛けして担っていただいている方もいます。顧問の先生と同じ立場で指導したり、引率したり、単独で指導することもできます。当然、部活動外部指導者であれば、先生が常についている必要がありますが、部活動指導員は顧問なので、単独で動くことができます。先生が別な業務をやって、部活動につかなくて良いといったこととなります。学校現場からは非常に助かると聞いております。石狩管内でも部活動指導員が多くなっておりますが、なかなか人材確保が難しくなっている状況でございます。私たちが求める競技と手上げる競技が合わないということもございませうけれども、令和5年で3名、令和6年で5名、来年度は6名と少しずつ増やしていく形で学校の負担軽減に努めている状況です。

小森会長) 各学校で補えない部活を校長会で調整しておよそ1校1人ずつ配置していただき、来年度1人増える分はどこの学校が不足するか調整を行います。顧問はだいたい揃ってはいるのですが、不足する種目に配置していただくイメージです。教員と同じ顧問を担えるので、非常に助かっています。本校でいうとバスケット部の男子、サブ顧問はつけておりますが、お願いしております。

清水氏) 今後のイメージとして、この制度、暫時的になるのかもしれませんが、非常に取っ掛かりとして良い制度と直感的に思います。これをベースにうまく発展していけば、石狩市版の制度が定着していくのではないかと。全く新たに、いろんな団体から出るというのは意外とハードルは高そうだなというのは思っていたのですが、この部活動指導員と部活動外部指導者というカテゴリーだと大きく発展させていけそうな、財源のコントロールも市教委で行っていると思っておりますので、非常にうまくいき

そのようなイメージを私は持っております。

事務局\_森本課長) 部活動外部指導者は手弁当の額しか支給していませんが、部活動指導員は時給1,600円払っており、週11時間勤務を上限に国の2/3の補助が出ており、補助を活用しながら増やしています。予算要求はしていますが、なかなか難しい状況にあります。

小森会長) そうはいつでも、この制度だけでは全然間に合わないような世の中になっているので、部活動指導員が各校10人ぐらいいないと。ただ、生徒の数も減っており、部活動があっても生徒がいないと部活動指導員も持て余してしまうので、違う提案が出たりしています。他にもありましたらお願いいたします。

小原委員) 今まさに、自分の子供たちが高2・中3・小5で2人部活のお世話になっており、小5がクラブチームでサッカーをやっていますが、中学に入るときにどうするか、部活又はクラブチームの選択ですが、私としては部活を継続してほしいなと思っています。地域移行する会議でこういうことを言うのもなんですが、というのも、クラブチームになると競技に対する熱意というか、競技ばかり一生懸命になってしまう懸念があります。勉強との両立を願う立場では、部活動は良いなと思っています。教育というところで、競技だけではなく、コミュニケーションを図る等のメリットが部活動にあると思っています。想像ですが、たとえば先生方の配置を変えることで部活動を継続できないかと思っています。長男は、部活の人数が少なくて合同になったのですが、各学校から先生がつくことで計6人になりました。でも例えば一つの学校に部活がありそこに皆が行けば、例えば先生が2人で済むようになるなど。そういう北中は人数が少なくて2クラスしかない。勉強に関してもなかなか身が入らないといった話も聞いていて、競争がない環境にあります。目的別のクラスができませんかという話もありましたが、2クラスではどうしようもないとの話になりました。部活動もそうですし、勉強の面でも石狩全体を見て目的別に上の高校を目指したいというクラスがあったらそこに行けるようになれば良いと思いました。双葉小学校だけが中学校が2手に分かれることになり、馴染みにくい環境にあります。学区を変えられないかとアンケートに書いたこともあります。なかなか難しい現状があるようです。学校を越えて色々選べるようになったら良いなと思います。

事務局\_森本課長) 部活動の観点からお話させていただきますと、今まさに小原さんが言われたとおり部活動を残してほしいというお話はあります。合同部活動の話もありましたが、これから我々のほうで提案しようと思っている拠点校方式というのがまさに今言われていたことかなと思います。たとえば北中にサッカー部を作ったとして、今まではサッカー部に入りたい場合は、学校ごと北中に移ることになるんですが、たとえば学校生活はそれぞれで、部活だけ北中に行くという仕組みをアンケート結果を踏まえて検証してみてもどうかということをお話させていただきます。

小森会長) 小原委員が心配されているのは部活がなくなるということだと思いますが、部活動を全部なくすわけではなく、大部分は残しつつ、一部の部活に拠点校方式を導入する提案がこの後あるということです。先に進めてから戻っても差し支えないので、

今後の展開についての説明を事務局からお願いします。

事務局\_森本課長) 前回(第2回)の議論の中で、非常に難しい問題ですので、市としての方針を示してもらわないと議論が進まないといった意見が出されておりました。そのため、前回では、団体のアンケートを実施し、団体の意向なども踏まえて、市の方向性を提示することとなっております。この度、アンケート結果の集約も終了し、国の最新動向も把握できましたので、市の方向性を説明させていただきます。ページでいう14ページをご覧ください。市教委としては2つの側面から考えていきたいということで、部活動の継続・地域クラブへの試験的移行の検討の両方を進めていったらどうかと思っております。というのは、拠点校方式の導入に向けた実証ということで、屋外の団体部活動の加入者が減っているということで、チーム編成が難しい状況になっています。野球・サッカー・ソフトボールの3競技が厳しい状況にあります。地域クラブ活動という方法もありますが、まずは1ステップとして部活動を残しながら活動することも検討すべきと思っております。この3種目について、拠点校方式の導入に向けた実証を勧めようと思っております。懸念事項としては、移動方法、たとえば自転車かバスか、保護者負担の在り方も調整が必要です。色々な課題はあろうと思いますが、拠点校方式を採用している他自治体の事例もあるため、3競技については、実証に向けた取り組みを進めたいと考えております。地域クラブへの試験的移行の検討については、団体のアンケート結果を見て、厳しい意見を想定しておりましたが、クラブ活動、やはり子どもの活動の場を作りたいと団体も思っていたようで、やれる競技もあると判断されました。団体に聞き取りをしながら個別にお話をし、模索していったらどうか。個人競技が主になろうとは思いますが、課題整理をして実施に向けた検討を進めたいと思っております。公的支援、財源の問題と活動場所の課題が想定されますので、こういったことを個別にそれぞれの団体の事情もお聞きした上で、来年度以降に向けて制度スキームを検討してまいりたいと思っております。この両面で進めて行ければと思っており、この協議会は今年度で終了予定ではありましたが、メンバーの入れ替わりはあろうと思いますが、できれば本協議会を継続させていただきながら、拠点校方式や地域クラブ活動への移行について報告させていただきながらご意見賜りたいと思っております。説明については以上でございますが、①の並行稼働と②の協議会の存続について、提案させていただきますのでご意見願います。

小森会長) 提案がありましたが、難しいので補足させていただきます。部活動はかなりの数があり、今後も引き続き継続していきます。例えば本校でしたらバトミントン部にしても女子バレー部、バスケット部にしても、体育館に溢れるほどおりますので、拠点校にするのは今の段階では不可能ですので、現状の部活動は残すことが一つ目です。例えば野球とソフトとサッカーは、先ほど小原委員が言われたように、合同部活動であればそれぞれの学校から2人ずつの顧問が集まることとなりますが、拠点校になるとたとえば北中が拠点校のサッカーになると、顧問が2人で足り、北中をメインで活動することとなる。野球にも同じことが言えます。それが拠点校方式ですが、懸念事項もあります。地域クラブは、地域で担ってくれる種目があれば個別に調整してやってもらうといった提案です。つまり、3つのポイントがあります。現状の部活動

の大部分は存続します。その上で、拠点校方式の導入が可能な種目を探ります。そして最後に地域クラブでの移行についても検討していくという3つです。ご意見ありませんでしょうか。

向田委員) 拠点校方式はとても良いと思うのですが、今までは交通費もかからずその学校で済ませられた子供たちが、自転車で行ける時期は良いと思いますが、冬になると交通機関を使わなければならないという状況になり移動手段にかかる経費が生じます。移動が必要な生徒と自分の学校で活動する生徒との間で不公平が生じることになりませんが、その辺はどのようにお考えですか？

事務局\_森本課長) 先ほどご説明しましたように検討の対象となりますのは基本的には屋外の団体スポーツと考えており、雪が降るまでがメインの活動になると思います。実証とさせていただいたのは、性急に走ってしまうと後戻りができなくなります。まず課題が出てくると思います。足の問題や保護者負担の問題、大会を勝ち進むと遠征費の問題にもなります。色々な問題が出ると思いますので、まずはその3種目を、できれば段階を踏まえた上で、検証し、本当に続けられるものなのか探っていくことも必要と思っております。当然に冬は体育館で練習すると思っておりますので、移動手段等の課題をクリアするために実証という意味合いで書かせていただいたところです。

西田委員) お話を聞いていて、6年という時間がどうなのかと思っております。しかしながら、会長がおっしゃるように今ある部活動を残しながら探っていくというのが前提となるので、石狩版を確立する上では仕方ないのかなと思っております。国の動向もあると思っておりますが、先生方も管内で異動と思っておりますので、管内の情報共有は年に何回か行っていた中でフィードバックしていただくとスピード感が出ると感じています。

中川委員) 私は野球の専門でしたが、雪の降っていない時期であれば表で活動していましたが、雪が降ると体育館を使うことになり、体育館の使用を前もって自分のいる学校に話せばよかったが、これが地域移行になったときに複数の学校に伝えるのが上手くいくのかなというのが、やってきた本人として引っかかりますし、やはりチームプレイという団体戦になってくるとどうしてもその学校の中で一つのチームとしてみるならば地域移行もありかなと思っております。ですが、試合をする管内、全道に行くときのチームプレイとしては無理があるのかなと皆さん感じていると思っております。そもそも競技性を持たせて指導するのか、それとも中学生ぐらいまでは健全育成として、勉強が第一として、そのために健康な体を作るために運動してくださいという話なのか、それによって関わってくる方も違ってくると思います。競技性重視なのか、それとも体を動かして健康な体を維持しながら勉強して精神を鍛えてくださいということなのか、その方向性、実際自分も少年野球を教えていた際に保護者会を開くのですが、そこで言われたことを今話しているのですが、試合を勝ち上がっていける強いチームを作ってほしいという場合と、体を鍛えるためなど運動してもらおうためのチームとは一つ一つの練習の仕方が違ってきます。そうした場合に部活の顧問はどの程度のことをやっているのかなと興味がありますので、各学校で受け入れてもらえれば実際に見学に行きたいと思っております。そのうえで私は少年団もやっておりますので、推進委員も

人が足りないなどの声掛けは可能かなと思っています。

西田委員) 私も野球関係ですが、考え方的にすごく合っていると思います、昔は学校教育の中に部活動が定められていましたが、この働き方改革の面で、先生方は4時半には帰らなければならないので、その考え方が昔と違います。当然部活動をしているほうが健全育成ですし、自分も部活動でかなり助けられています。保護者の協力や生徒も良くなっていますし、ただそこが難しく、変わっていく部分であろうと思います。部活動指導員の方にそこまで求めなければならないのでしょうか。

西野委員) 今後の方向性ということで今の部活動をまずは大切にしていこうということと、拠点校方式も試験的に試していこう、地域クラブへの試行もやってみようということですね。スポーツ協会の加盟団体20数団体はアンケート調査ではその部分に出したと思うのですが、各加盟団体も会員数がだんだん減少してきていて、中では高齢化も進んできていて、移行という言葉を知ったら私たちが全てやらなければならないのかという思いに駆られているのではないかと思います。地域移行から地域展開という言葉に変わったというのはこの辺の意味合いも強いのかなと思いますので、色々なことを積み重ねてこれだったらお手伝いできますよということをしつづつ掘り起こしてやっていただければ良いのかなと。スポーツ協会では初心者スポーツ教室というのを各加盟団体にお願いしていて、多くはないですが小学生等を中心にそういったことも実施しています。そこから子ども達がスポーツの楽しさを感じて次の部活動につながっていくのが望ましいなと聞いていて思いました。

小森会長) スポーツの件ばかりの話が続きましたので、吹奏楽部関係はいかがですか。

松田委員) 吹奏楽部につきましては、一定数の人数がいないと演奏活動が成り立たないと思いますし、同じ年代、先輩後輩の中での学びもありますし、私自身も先輩後輩の中での学びは大切にしていたので、その中でも拠点校方式というのは良いのかなと思いました。地域クラブなどに移行となってしまうと、大人のなかに入ってやるのは緊張してしまいますし、どうやって接したら良いかなどの戸惑いもあると思います。慣れるまで時間がかかると思いますのでそういう面では、拠点校の場合は同年代の学校を超えた仲間も出ていくので、人間成長というかそういう部分につながっていくのではないかと思います。いろいろ課題はあるかと思いますがひとつずつサポートできるところはサポートしていきながらいければなと思います。

小森会長) ありがとうございます。先日、私が会議に出た際に、地域移行や地域展開では先ほどお話ししていたように「自分で進んでやりたい」と積極的に言える人はなかなかいません。全国的にも、普通の人や先生に代わってやる例は非常に少ないので、移していくには、まずは「一緒にやっていく」ということから始めることが必要です。先ほど学校に行って見てみたいとおっしゃっていたので、そこからでも良いというのは、全国の会議でも話されていました。無理やり進めるのではなく、まずは一緒に大人もやってそれを手伝うところから始める、まさしく高いハードルを下げたほうが良いということをお話ししていました。石狩の方は皆さん協力が素晴らしいので、そこからかなと思っています。

清水氏) 私も吹奏楽と一緒にやっているのですが、各中学の吹奏楽部の人数が少なく

なっていて、吹くことも楽しいと思いますが、合奏、サウンドが素晴らしく響き渡るといった感動を味わうのは厳しいのかなとみています。やはり拠点校方式で複数の学校で集まって、常に40人50人で集まって合奏したら楽しいだろうなど。先ほど会長もおっしゃられていたように指導者もそれで少なくすることができますよね。吹奏楽部なんかをもし可能であればスポーツのほかに一つ入れていただければ非常に効果的かなと思って聞いておりました。

小森会長) 楽器をどこの学校で保管するのかなど、吹奏楽にはそういう問題があるというのでそのハードルが大きいですね。ですが一緒にというのは有難いお話です。他の方はいかがでしょうか。

向田委員) アンケートで受入れは可能というのは出させていただきました。アクト・スポーツクラブとしては色々な会議の中で、日本スポーツ協会だったり北海道スポーツ協会からも後ろを振り返るのではなく前を見ていかなければならないというのを言われていまして、北見などはすでに走り出しているような状況で、色々なところのお話は聞かせていただいている、私たちとしては何ができるのかと考えたときに、私たちは陸上だったり、テニスだったり個人競技にはなりますが、それであれば私たちの活動拠点に子どもたちが足を運んでもらえればお手伝いできることはあるのかなという形でお答えさせていただきました。

小森会長) ありがたいですね、森本課長。

事務局\_森本課長) まさに団体競技は部活動として残しつつ、個人競技については受け入れしていただける団体があるということですので、お話しさせていただきながらどういう形で出来るのかを個別でやらないと難しいかと思っておりますので、お話を聞かせていただく機会を持ちたいと思っております。

小森会長) 他にないかありますか。小原さん何か質問あればどうぞ。

小原委員) ちょっと聞いてみたいなと思ひまして。例えば、個人で陸上をやりたいと言ってお金を払っているお子さん達もいますよね。それと部活が無いから陸上を受け入れる、そこに公的支援を検討するとなると差別化というものは出てくるのでしょうか。

向田委員) そこは行政側との話し合いしかないと思いますが、なるべく私たちとしては負担なく、現状の部活動みたいな形として参加していただきたいと思ひていますが、一応こちら指導者側の謝金が発生したり、消耗品を買ったりだとかクラブでもしている、その経費はどうしてもかかりますので、そこはボランティアが良いですというキャパは正直ありません。ですので、例えば親御さんからの協力が得られるものなのか、それともこちらのアンケート回答にあるように、色々な企業さんが石狩市は新港にたくさんありますので、そういう企業さんに声掛けをして子供基金のような独自の基金制度を作って、例えば先ほどの交通手段とかの交通費の補助ですとか子供を支えるような別の基金制度みたいなものを作って差別化を防ぐとか、そこはもう大人がアイデアを出し合うしかないかと個人的には思ひています。可能かどうかはわかりませんが。

小原委員) 元々、お金を出して通っていたお子さんもそこに含めて一緒に活動すると

いうことになっていくということでしょうか。

向田委員) 差別化なく出来たら良いかなと思っております。

小森会長) 中西副会長なにかありますか。

中西副会長) 色々な立場があるので厳しいこともありますけれども、国も地域移行ということで旗を振った割にはなかなか制度設計含めて色んなものが追いついていないと。まさに地域へといっているのに、地域に対する財源などの枠組みは全くできていないので、今進めている指導者を学校側の顧問として配置するという部分については、ある意味指導者というものを地域に移行すると。ただ学校の中で活動してもらうということなので、外側に地域のクラブに移行するというということではないという状況なので、なかなか地域に進んでいかない現状なのかなという気がします。そういう意味では学校に部活があったほうが、結果的に子ども達にも先生にもセーフティーネットを含めて色々なメリットがあるので、やはり部活動としてあったほうが今の形だと良いのだらうなということで、部活動を活かしながらどうやっていくのかというのが今の段階かなという気がしています。とはいえ、子ども達は3年で卒業してしまうので、どんどん変わっていく中で今後6年間の計画期間でやっていくとどうなのということと、あとはどうしても今、中学校も夏休みには小学校6年生の体験会とかやっていますよね。そういう意味では、もう夏休み前には次の4月以降どうするのかということもある程度、次のステップを検討していかないといけないということにもなってくると思います。とは言いつつ、今度は先生の人事が3月まで分からないというような、色々なミスマッチがあるので非常に難しいところはあるのですが、一定の枠組みを一つ一つ、今ご意見いただいたお話を含めて潰しながら、管内でどうするのかということもあるのですが、石狩市でしか出来ないことと出来ることもあると思うので、そういったことも探りながらスピード感をもってやっていく必要があると思っています。

小森会長) 中学校校長の人事の一番の胃が痛くなるのは、担当できる顧問の配置問題です。ただ、今、割と石狩は部活存続するような根本がある程度は揃っているので、子ども達はそんなに不幸せではないと思っています。さて、スポーツ健康課はいかがですか。

矢野委員) このご時世で必ず必要な制度の改革になると思いますが、なかなか実現することができない課題が必ずあるというところで、期間の延長などが現実になっていますが、地域移行で道内で成功している例は今のところあるのでしょうか。

事務局\_森本課長) それほどは聞いてはいないです。

矢野委員) 地域移行は素晴らしい取り組みだと思いますが、イメージが皆さんもまだ湧いていないのかなという感じがしています。成功例があって、こういう流れでこういう取り組みで、というものがイメージできれば良いかなと思います。たぶんそのイメージがまだできないのかなという不安、成功例が無いのでできていないのではないかと思いますけれども。

事務局\_森本課長) 登別市が地域移行を進めようという事で、サッカーで始めていたと思いますが、やっていくことで課題が出てきて、一か所に集めてチームを編成することでレギュラーかレギュラーじゃないかななどの色々な問題が生じて、なかなかスピ

ード感が当初よりは出ていないとは聞いております。やはりやることによって当然、財源や人の問題はありますが、子ども達側の課題も発生していると話を伺ったところでもあります。最終的には色々な課題が出てきまして、石狩管内でコントロールは必要でしょうし、石狩オリジナルの形を出していくことも必要なもので、それはトライ&エラーでやっていくしかないのかなと思います。

矢野委員) 中西副会長がやられているソフトボールのU-15は良い成功例じゃないかと思うのですが、あれは地域移行には入ってこないのでしょうか？

中西副会長) 地域移行を目指して地域クラブを作っています。

矢野委員) 最先端の良い事例なのではと思います。

中西副会長) 何をもって成功かというのは難しいですし、毎年毎年状況は変わるので難しいですが、今はハイブリッドでやっているところではあるので、無理やり感もあります。

矢野委員) そのU-15の取組は地域移行なのではと感じますけれども、地域移行にはあと何が足りないのでしょうか。

事務局\_森本課長) 地域移行は中学校の部活動を全部無くしてしまって、全部の活動をクラブに平日も休日も全部移してしまう。地域で全部行うという仕組みなので、まだ花川中学校に部活として残っていて、今ハイブリッドとありましたが、部活動を残してクラブも活動によって平日・土日を上手く使い分けをしています。また、部活動は石狩市内でしかできませんが、クラブチームだと石狩市外でもできます。そこで大会に出たり出なかったりを調整されているということ聞いています。本来であれば、部活動を無くして移すというのがスタンスですが、そうすると活動場所をどうするのかという問題も出てくるので、まさにハイブリッドでやりながら出てきている課題をどうするのかという話をしているところではないのでしょうか。中西副会長、そういうことでしょうか。

中西副会長) 言うとならば、一部移行しているということかなと思います。またここで一つ課題なのが、地域に移行して地域のお金を貰って頑張りなさいというようなことを国は言いますが、ユニフォームにスポンサー名を入れてお金を貰っていますけれども、中体連はそれを着て出たら駄目ということなんです。言っていることとやっていることが違うじゃないですかという。自分たちでお金を集めて良いと言っておきながら認めないというルールなので、ある意味入口に立って挑戦的にやってみたところです。

矢野委員) 一部地域移行には一部拠点も入っているイメージですよ。

中西副会長) イメージ的にはそうです。色々な学校の生徒がいるのに部活動があるのは花中だけに今なっていますので。樽中もなくなりましたが樽中の生徒もいます。だから非常に説明が難しいです。

矢野委員) 先だって良い例を出していますので、それをイメージしながらやっていると良いのではないかと思っていました。

小森会長) 結局は数年前から予算を貰って、例えば登別市にしろ小樽市にしろ、あちこち全国でもう実験しています。お金を貰って何年間やっても結局すごく大成功して

いる訳ではないということだと感じています。石狩型のようなものが無理なく進んでいくかというのは、ソフトボールを例えば拠点校方式にしてやってみてどうなるかとかいう段階かなと思います。斉藤委員どうですか。

斉藤委員) 課題が多くて、なかなか打開策が無いなど。私も登別市の話などは何年か前に聞いていますが全国を見てもなかなか良い例も無いですし、自治体の規模も違ってくるので参考になかなかできないと思うので難しいなど。社会教育課的にも地域教育活動などでボランティアの方に手伝っていただいていますけれど、部活動まで本格的になるとボランティアでは難しいと前々から考えておりまして、これはすごく難しい課題だなと思っております。

小森会長) ありがとうございます。14ページのまずは【部活動の継続拠点校方式】という面と【地域クラブへの試験的移行の検討】ということで、すぐ4月から始まることは全く無いかと思いますが、協議会は来年も継続ということで、皆さん来年も引き受けていただくようお願いいたします。

事務局\_森本課長) これについては、皆様方には関係機関協議会ということで報酬も費用弁償も全く出さないということでお願いして大変心苦しいですけど、来年も関係機関ということで皆様方のお力をいただいて、年に1回か2回程度になると思いますがこういった形で意見をいただければ、私たちも非常に支えられますのでお願いできないかなというところがございますが、いかがでしょうか？

小森会長) この委員会は市でも大事な委員会だと思うので、出来ればこのメンバーで続けていければと思います。ということで、よろしいですか。まだまだ質問あるかと思いますが、わからないことあれば直接、森本課長にいただいてよろしいですか。様々なご意見いただき、本当にありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

## 7. 閉会

事務局\_森本課長) 色々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。まずはこの14ページで提示させていただきまして、この方針で進めさせていただきたいということで、ご了解いただいたと捉えさせていただきます。以上を持ちまして、協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

令和7年5月7日 議事録確定

石狩市学部活動の地域連携・地域移行等に関する関係機関等協議会

会長 小 森 享